

令和4年7月28日

能代市教育委員会
7月定例会会議録

能代市教育委員会

令和4年7月28日、能代市教育委員会定例会を能代市役所新庁舎3階会議室9・10において午後2時に開会した。

○出席の委員は、次のとおりである。

教育長	高橋誠也
委員	木村高寛
委員	西村省一
委員	中嶋佐千子
委員	寺田恵美子

○説明のため出席した者は、次のとおりである。

教育部長	伊藤勉
教育総務課長	柳谷敬
能代教育事務所長	本間将
学校教育課長	矢田部瑞穂
学校教育課参事	三洲龍太
学校給食センター所長	工藤久美子
生涯学習・スポーツ振興課 文化財保護室長	山崎和夫
教育総務課長補佐	秋林純

○オブザーバーとして参加した者は、次のとおりである。

学校教育課指導主事	柴田裕彦
学校教育課指導主事	大山祐子

○本日の会議に付した事件

日程第1	会期の決定
日程第2	会議録署名員の決定
日程第3	前回定例会会議録の承認
日程第4	教育長報告
日程第5	議事
	承認第3号 臨時代理の承認について
日程第6	その他

【日程第1 会期の決定】

○教育長

本定例会の会期は、本日1日限りとし、会議時間を午後4時までとする。

【日程第2 会議録署名員の決定】

○教育長

会議録署名員に、2番木村委員と3番西村委員を指名する。

【日程第3 前回定例会会議録の承認】

○教育長

委員の皆さんから異議がないので、前回6月定例会会議録を承認する。

【日程第4 教育長報告】

○教育長

前回定例会以降の行事等について報告。

7月 6日(水) 能代市文化会館運営協議会(中央公民館)

7月 6日(水) 能代市公民館運営審議会(中央公民館)

7月 9日(土) 2022あきた水と緑の森林祭・第63回能代市植樹祭

(道の駅ふたつ、毘沙門憩の森)

7月11日(月) 第1回カリキュラム・マネジメント検討会議

(二ツ井町庁舎 大会議室)

7月11日(月) 人事交流懇話会【岡山県教育委員会】(二ツ井町庁舎 庁議室)

7月22日(金) ネット安全ガイドブック、子ども手帳贈呈(二ツ井町庁舎 庁議室)

7月27日(水) 能代市立図書館協議会(書面会議)

7月28日(木) 教育委員会定例会(新庁舎 会議室9・10)

8月14日(日) 能代市成人式：令和3年度対象者(文化会館 大ホール)

8月15日(月) 能代市成人式：令和4年度対象者(文化会館 大ホール)

8月20日(土) 能代市戦没者追悼式・平和祈念式典(中止)

8月25日(木) 教育委員会定例会(二ツ井町庁舎 大会議室)

【日程第5 議事】

○教育長

「承認第3号 臨時代理の承認について」説明を願う。

○教育部長

能代市公民館条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則について《資料により説明》

○教育長

異議がないので、「承認第3号」を承認する。

【日程第6 その他】

○教育長

「その他」について

各課から報告事項や連絡事項があれば、願います。

○教育部長

能代市青少年問題協議会委員の委嘱について《資料により説明》

第4次能代市社会教育振興中期計画の策定について《資料なし》

○教育総務課長

令和4年度能代市の教育について《当日配布》

○教育長

質問等をお願いする。

○教育長

質問等がないようなので、質疑を終了する。

続いて、委員から本日の議事や報告事項等以外で、意見等があれば、発言をお願いする。

○木村委員

現在のコロナ禍での対応は、以前のような蔓延防止法等、規則的な形で発せられなくなってきた。子ども達に対してどういう対応をしたら良いか。私の想いだ、心の三密、例えば、自分の行動を見直し、大事なものを見極める。みんなの命を守る行動を取る。自分勝手な行動は慎み、他人のためにどんな行動を取るべきかを考える。外からの命令ではなく、自分の中から自分を律していくという時期に入ったのではないかと思う。

言葉、発言について、自分の言動を見直し、正していく。ありがとうと感謝の気持ちを口に出す。

それから、もう一つの密は、考え方というか、心の姿の教えというか、自分の心の揺れ動きを観察する。心をありのまま見て自分に気付いていく。自分の心と向き合いながら、真心を込めた行動や発言を心がけていく。というふうに、自らの予防というのが、今、求められているのではないかと感じる。

もう1点、今日、わんぱく道場開催日だったが、このコロナ禍で中止となった。今年は、命をテーマに進めていこうと考えていた。そのきっかけは、「風に吹かれて」という、ボブ・デュランの歌を、桑田圭祐が訳し、すばらしい曲、歌詞にしていたという、教育長のお話だった。その中で、「そんなに見て見ぬふりをして、我々は幸せかい？」というような歌詞があった。人は、あと何回顔を背けて見なかったふりをしたらいいのだろうか、多分、ウクライナの悲惨な戦争を見て作られた歌詞だと思うが、ニュース等で見るように、道路を裸足で子どもが泣き叫びながら歩いていく姿がある。その子供たちを、どれだけ見えて見ぬふりをして、私たちは幸せになれるのかい？というような歌詞かと思う。

そこで、命はなぜ尊いのか、という問い。これは、秋田県ではないが、「いっそ死んでしまったら楽になると思ったことがあるか。」と中学生へ問いかけると、返ってきた答えが、「いじめみたいなことをされて、死にたいと思ったことは何回もある。」、「両親がすごい喧嘩をしていた時や、母が父の悪口を言っている時に、こんな家に生まれてこなければ良かったと思ったことがある。」、「時々、生きている意味があるのかなと思ってしまう。」、「死ぬというより消えたいと思ったことがある。」、「死にたいと思ったことは無いが、家を出たいと思ったことはある。」と、いくつかの回答が返ってきたとのこと。

もう一つの問いで、「なぜ、命は尊いのかと聞かれたら、あなたは何かと答えるか。」という設問に対し、「親が大変な思いをして生んでくれ、この世に一つしかない大切な命だから。」、「今の自分までつないでくれた人たちのためにも、一生懸命生きていくという責任があるから。」、「生きたくても生きられない人がいるから。」、「皆、その人それぞれの命を持っていて、長年の中で作られてきたから。」、「その人がどんな人生を送って、どんな思いをしたか、それも命の中に含まれている。」というような答えが返ってき

ている。

以上のことから、子どもたちが何を求めているのか、そして大人は、それに対して何をしなければいけないのか、というのが、自然と見えてくるように思う。ウクライナの子どもたちの姿も含めて、子どもの命を全力で大人が守ること、これが、今年のわんぱく道場のテーマにしようと思っていたことである。中止になったので、また機会を見てと思っている。もし、いじめ等に活かされるようであれば、参考にしていただければ幸いである。

○教育長

ありがとうございます。

○西村委員

今、新型コロナウイルスの感染者が急増しているが、例えば、幼稚園の下の子が陽性になった場合、小学生の上の子はどうしたら良いのかとか、色々と対応が分かりづらくなってきたと思う。現場では混乱を来していないか。

○学校教育課参事

感染が広まってから結構長い年数になってきているが、初めは非常に混乱している状態が多かった。最近では、学校で子どもたちの様子や、教師との関わりを見て濃厚接触者かどうかを判断し、学校医と相談して速やかな判断を下している。国も、社会生活が成り立つよう、今までは一週間や、五日になっていた待機期間を短縮したことから、今日、学校に新たなガイドラインを発出した。二日目と三日目が検査等で陰性だった場合は、濃厚接触者でも待機する必要はないということで、社会生活同様、学校の教育活動も停滞しないよう、新たなガイドラインを基に進めていきたいと考えている。

○西村委員

すぐ検査できれば良いが、陰性が確認できるまでは休まなければならないのか。

○学校教育課参事

ガイドラインからすると、そのようになる。教育委員会からも、各校に検査キット等は配布しており、全校分は無理だが、時と場合により職員の分も、それから、例えば体調を崩し、高熱があるといった場合も活用できるように配布している。

○寺田委員

昨年度の能代市総合教育会議が書面開催で行われた。その内容について教育長、委員の皆様ともっと詳しく具体的な意見交換をしたい旨、4月定例会の際、木村委員が提案された。私もぜひ教育長や委員の皆様の見解を伺いたいと思っている。自分の思いが薄れない、忘れない内にできれば早い時期に機会を設けていただきたいと思う。検討をお願いします。

○教育総務課長

早急に、日程を検討する。

○教育長

他に意見等がないようなので、終了する。

以上で予定された事項は、すべて終了した。

次回の定例会は、8月25日午後2時から、能代市役所二ツ井町庁舎2階大会議室において開催したい。

本日の定例会を閉会する。

午後2時30分閉会